

はぐくもう
人へのやさしさ
思いやり

武庫しののめ

武庫地区人権啓発推進委員会
尼崎市南武庫之荘 11 丁目 6 番 15 号
尼崎市立地域総合センター南武庫之荘
電話・FAX 6438-5875

千木良会長の挨拶が始まった
総会は、来賓の紹介・挨拶に続
いて、議事に入りました。まず
第一号議案「平成二十八年度事
業報告」が承認され、続いて第
二号議案として、選出団体の役
員交代などに伴い、石田互さん
(武庫地区小・中学校連合育友
会役員)が新たに副会長に選出
されました。最後に第三号議案
「平成二十九年度事業計画」が
提案どおり承認され(下の表参

平成二十九年度 事業計画等を決定

照)、無事終了しました。
総会終了後、特別講演会を開
催し、講師の尼崎市市民協働局
部長兼武庫地域振興センター所
長の播磨美行さんから、「武庫
地区のまちづくりについて」と
いうテーマでご講演いただき、
全日程を終了しました。
(事務局)



平成二十九年六月十五日(木)、
新設された尼崎市の武庫支所・武



庫地区会館で平成二十九年度武庫
地区人権啓発推進委員会総会が開
催され、今年度、所属する各団体
から選出された推進委員、協力委
員、人権啓発リーダーといった武
庫地区の人権啓発活動を最前線で
担われる方々が三十名以上出席さ
れました。
総会終了後、武庫地域振興セン
ター所長の播磨美行さんをお招き
して、特別講演会「武庫地区のま
ちづくりについて」を開催しまし
た。
講演では、「まちづくりはひと
づくり」という観点から、武庫地
区の現状および課題についてお話
しいただきました。

平成二十九年六月十五日 武庫地区人権啓発推進委員会総会と 特別講演会が開催されました。

武庫地区には、豊かな自然、歴
史、文化といったまちの地域資源
がたくさんあり、また社協や自治
会、スポーツや文化活動のサーク
ル、PTAなどさまざまな団体が
地域に根差した活動をしていると
説明があり、いくつか例を挙げら
れました。
例えば、秋になると五百五十万
本ものコスモスが咲く武庫川河川
敷では、地元のボランティアア
グループが平成十五年から栽培を続
け、現在では阪神間最大のコスモ



ス畑として多くの人に親しまれて
います。また、毎年六月には、有
志の方々が育てたホタルの鑑賞会
が西武庫公園で行われています。
一方、高齢化が進み、次世代の
担い手不足が課題であるとの指摘
もありました。その解消のためは、
退職後の団塊世代や子育てを
終えた世代、大学生などこれまで
地域活動にかかわりが薄かった人
たちがあらたに地域の力として加
わり、お互いが連携していくこと
で地域社会の総合力が上がり、元
気なまちづくりにつながっていく
と力説されました。
(事務局)



平成29年度 事業計画

人権問題講演会

武庫人権推の推進委員、協力委員、人権啓発リーダー、
参画団体の皆さんを対象に実施します。

- ・総会時、特別講演会 (6月15日)
- ・人権啓発リーダー研修会 (7月12日)
- ・各種団体別合同研修会 (10月中旬、12月中旬)

人権週間の取り組み

12月4日～10日の「人権週間」の機会をとらえて、様々な
啓発運動に取り組みます。

- ・啓発パネル、ノボリの掲示 (11月末～12月10日)
- ・街頭啓発活動 (阪急武庫之荘駅南北)
- ・街頭啓発用啓発チラシ袋詰め作業 (11月)
- ・武庫地区人権問題講演会 (12月)

武庫しののめの発行

武庫人権推の事業や、人権啓発に係る記事・情報を、武
庫地区管内に新聞折込等で配布します。

- ・年2回発行 (9月、3月)

視点



終末期医療

先日、『欧米には寝たきり老人
はいない・自分で決める人生最後
の医療』という興味を引く本が
あった。

世界一の長寿を誇る日本は、医
療技術が進歩したばかりに、高齢
者が意識のない状態で何年も寝た
きりになる国である。高齢者が食
べられずに点滴や経管栄養で本人
がわからないまま栄養を補給し、
機械につながれ、苦しい検査や床
ずれに苦しみ、点滴や栄養の管を
抜かないようにベッドに手を縛ら
れることもあります。

九十一歳で父が亡くなる時に医
師が、喉を切開し呼吸器を付けて
延命処置をしますかと言ったと
き、そんな状態が生きているって
言えるのか、これ以上、父につら
い思いをさせたくない、と母が一
番に反対しました。

欧米では、食べられなくなった
高齢者に点滴や経管栄養はせず
に、自力で食べられる、飲める状
態で看取る、この方が脱水、低栄
養になっても患者は苦しまずに楽
に死ねるそうです。

日本も昔は、食べられない高齢
者にリンゴの搾り汁を口に含ませ
る程度で、家で穏やかに亡くなっ
ていました。

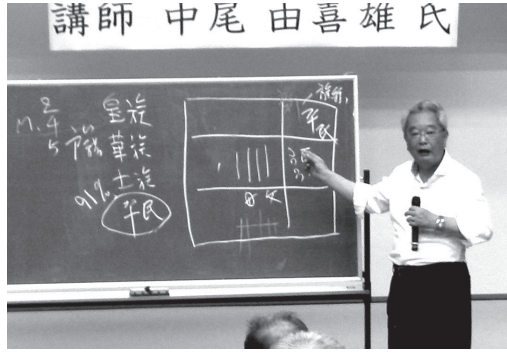
延命処置に無駄な金と時間をか
け苦しい思いをする現状よりも、
今後は緩和医療の充実が必要では
ないでしょうか。

(小谷豪郎)



人権啓発リーダー研修会を開催しました。

去る七月十二日(水)午後一時三十分から地域総合センター南武庫之荘で、武庫地区人権啓発推進委員会に参画いただいている各種団体、学校・行政関係から推薦のあった人



権啓発リーダーを対象とした研修会を開催しました。尚、参加者は六十三人でした。

当日は、「部落差別解消法を人権運動から学ぶ」というテーマで、実践に向けてというテーマで、講師には、全国隣保館連絡協議会・常任顧問兼事務局長の中尾由喜雄さんをお迎えし、講演をいただきました。

まず初めに、同和関連法の失効から十四年九か月を経て、昨年十二月に施行された「部落差別の解消の推進に関する法律」(部落差別解消推進法)についての解説に続いて、日本での人権運動・人権行政の歴史を振り返るお話がありました。

講師から、現在の部落問題は、明治維新から始まったとして、一八七二(明治四)年に太政官布告「賤称廃止

令」(身分解放令)が出されたが、差別解消の行政施策が全くなされなかったこと、その後、大正時代に米騒動や全国水平社の結成など、差別・抑圧されている当事者による人権運動の高まりの中で、国は地方改善費としてわずかな予算をつけ始め、戦後の新憲法のもとでも厳しい部落差別があることから、その解消に向けて、一九六九(昭和四四)年に「同和对策事業特別措置法」が制定され、以後二〇〇二(平成一四)年三月に法律が失効するまで本格的に同和对策が進められたこと、その後、「人権侵害救済法」が二度にわたって国会に提出されたが、いずれも廃案となった経緯を話されました。

しかし、今回の「部落差別解消推進法」制定につながった背景としては、これまでの人権確立に向けた広

範な運動の蓄積などと共に、悪質な身元調査事件の発覚、インターネット上の差別書込みの多発、「全国部落調査復刻出版事件」にみられる挑発的な差別煽動といった、厳しい部落差別の実態が、国として法制定に動いた大きな要因であることなどを話されました。

また、この法律はあくまで理念法で、規制法ではないが、プラス効果は、同じく昨年に施行された「ヘイトスピーチ対策法」と同様に大きなものがあり、各自治体が相談体制の充実、教育及び啓発、実態調査などの対策をすることが努力義務としたことなどがあげられるとお話でした。

そして最後に、今後に向けた取り組みとして、広く法制定の事実と内容を周知すること、また引き続き「人権侵害救済法」の成立を目標に取り組んでいくことが重要だと締めくくられました。

(三澤雅俊)

子どもも大人も全員集合！

今年四月十五日、武庫地区で初めての大人も子どもも参加できて楽しめる、至ての方の居場所としての子ども食堂「晴れるや」が、オープンしました。

オープン以来「晴れるや」は、毎回とても賑わっていることを心より感謝いたします。



者、障がい者まで、地域の誰もが気軽に集えて、勉強したり、遊んだり、何でも話せる場で、ほっとひと息つける居場所であり、食は皆の集まるきっかけ、一つの方法であって目的ではなく、地域の大人も子どもも一緒に食事することで、顔も覚え他世代の繋がり、地域の繋がりを広げていき、地域の子も達を暖かく見守り、互いに育っていくことを目的にスタートを切りました。

ボランティアスタッフは、できる時に、できる人ができることをゆるく、ながく、続けていこうと武庫地区の住民等が協力をして下さっています。



始めてみると、参加されている方々の中にも多様な問題を抱えられている方がいて、関係機関との連携により、「晴れるや」の活動として、今後も母子家庭への食料支援訪問も並行して続けていきたいと思っています。

また、障がい者の方をスタッフとして迎える、地域で適切な支援があれば暮らせること、障がい者である前に一人の人間として、どう生きていくのか一緒に考えようという「ピールファースト」の発想のように、私達も試行錯誤をしながら共に話し合いを重ねて、自立支援へと繋いでいきたいと思っています。

「晴れるや」開催に向けて、提供して下さりました博愛館様や、趣旨にご賛同いただきまして、たくさんのお心共のご協力いただきまして、誠にありがとうございます。心よりお礼申し上げます。更なるご支援の程、伏してお願ひ申し上げます。

まんまプロジェクト「晴れるや」 西 ユミ子 電話 090-5130-9210

武庫の歴史に包まれて

本紙七十六号から、武庫地区にある学校・幼稚園・保育所のある学校・地域とのふれあい、人権教育などの取り組みをシリーズとして掲載しています。今回は、武庫南保育所です。

尼崎市立 武庫南保育所

武庫南保育所は、昭和四十五年に設立されました。尼崎市の西部に位置し、少し足を伸ばせば武庫川があり、よく散歩に行き、四季の自然が豊かに感じられる保育環境にあります。定員数は百人で、日々子どもたちの元気で明るい歓声が、地域に響いています。



また、子どもたちは、地域の方々に見守られながら、秋の大祭の時は神社のだんじりの曳き手になり、地域を練り歩く楽しい経験をさせていたっています。

保育所の取り組みの「食育」おいしく楽しく食べられる子どもにも「でも地域のボランティアの方に」来ていた、野菜作り、大切なノウハウを伝えていただきます。

子どもたちも収穫を楽しみに一緒に畑づくりや菜園活動に取り組んでいます。

今後は尼崎市公立保育所の保育理念のもと、このような地域の方との触れ合いを大切にしながら、「生きることの幸福感」や「命の尊さ」を幼い頃から感じ取れ「人を思いやる心」が育つように地域の方々とともに、一人ひとりの子どもたちの健やかな成長を育んでいきたいと思っています。

武庫南保育所 所長 四宮靖子

武庫しののめ

編集委員

- 千木良 昌彦
- 中本 昌次
- 石田 互
- 敷島 智枝
- 廣川 弘美
- 奥田 淳子
- 三澤 雅俊
- 小谷 豪郎
- 雨宮 将晃
- 阪上 敏郎